

中池見湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類4種

藤野 勇馬*・金尾 滋史**

First records of four freshwater snails in Fukui Prefecture,
collected from Nakaikemi Marsh, Tsuruga city

Yuma FUJINO* and Shigefumi KANAO**

(要旨) 福井県敦賀市にある中池見湿地において、福井県産陸水生貝類目録に掲載されていないミズコハクガイ、ハブタエモノアラガイ、コシタカヒメモノアラガイ、コビトノボウシザラを確認した。このうちミズコハクガイは環境省第4次レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられている種であり、中池見湿地では休耕田を中心として広く確認された。また、残る3種はいずれも外来種と考えられており、人や植物等の移動に伴い非意図的に移入してきたものと考えられる。

キーワード：中池見湿地，淡水貝類，ミズコハクガイ，福井県初記録，外来種

1 はじめに

中池見湿地は福井県敦賀市に位置する面積25haほどの湿地である。この湿地ではこれまでに約1700種の昆虫と約600種の植物が記録されており(野原・河野, 2003), 特にトンボ類については71種が記録されるなど(藤野・和田, 2011), 湿地内における生物多様性が非常に高く、生態学的にも貴重な場所とされている(河野, 1998)。その価値は国内外に認められており、環境省の日本の重要湿地500, そして2012年7月にはラムサール条約の登録湿地にも指定された。

中池見湿地ではこれまでに多くの生物調査が実施されてきたが(野原・河野, 2003), 淡水貝類については調査がほとんど実施されておらず、同湿地内に生息する淡水貝類相はいまだ明らかになっていない。そこで、著者の藤野が中池見湿地内において2012年1月から2012年12月にかけて淡水貝類の調査を実施した。その結果、福井県産陸水生貝類目録(福井県自然環境保全調査研究会陸水生生物部会, 1998)には掲載されておらず、その他の福井県内における淡水貝類相の知見(窪田, 1962; 環境省自然環境局生物多様性センター, 2002; 福井市自然史博物館, 2006)においても記録のない淡水貝類4種、ミズコハクガイ *Gyraulus soritai*, コシタカヒメモノアラガイ *Fossaria truncatula*, ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella*, コビトノボウシザラ *Pettancylus pettardi* を確認したので、その概要を報告する。

2 調査地域の概要および調査方法

中池見湿地は、谷地形が泥炭などの堆積物によって埋もれてできる袋状埋積谷という特異な地形の典型的なものであるとされる(野原・河野, 2003)。その湿地内には自然状態の池や人為的な環境ではあるが水田、休耕田、水路など様々な水辺環境が存在し、それぞれに水深や流速、植生が異なっている(図1)。今回の調査では中池見湿地内における様々な水辺環境において貝類の採集を行った。貝類の採集は大型種については主にタモ網や手で直接採集した。また微小種については落ち葉や泥などの底質の堆積物を採集し、それらに付着しているものを採集した。



図1：中池見湿地

*福井県立武生高等学校定時制 〒914-0056 福井県敦賀市津内町1丁目10-11

*Fukui Prefectural Takefu High School Part-time Course, 1-10-11 Tsunai, Tsuruga, Fukui, 914-0056 Japan

**滋賀県立琵琶湖博物館 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

**Lake Biwa Museum, 1091 Oroshimo, Kusatsu, Shiga, 525-0001 Japan

3 中池見湿地において確認された福井県初記録の貝類

モノアラガイ科 Lymnaeidae

ハブタエモノアラガイ

Pseudosuccinea columella (Say, 1817) (図2-A)

本種はモノアラガイ科の中でも殻表に布目模様があり、殻口が細長いという特徴がある(増田・内山, 2004)。2012年3月6日に中池見湿地内において初めて発見され、主に水路や休耕田などで確認された。これらの水域では緩やかな流水の水面付近に多く、腹面を上にして水面を這う行動がよく観察された。また、中池見湿地内で確認されるモノアラガイ科4種の中では最も大型になり、かつ最も多く見られた。採集された個体は殻高12~15mm程度の個体が多いが、中には20mmを超える個体も確認された。本種は関東地方から中国・四国地方に広く分布するが、外来種と考えられている(増田・内山, 2004)。しかし、国内での移入や分布拡大についても未解明な点が多く、本湿地への移入についてもその要因は不明である。福井県内での記録はこれまでにないが、これまでの記録において他のモノアラ

コシタカヒメモノアラガイ

Galba truncatula (Müller, 1774) (図2-B)

本種は他のモノアラガイ科の種と比べて、殻高に対して殻口が小さい(増田・内山, 2004)。2012年3月15日に初めて確認された。中池見湿地の中では限られた範囲にのみ分布しており、主に水際の礫地や水路の壁面で多く採集された。また常に水面より高い位置から見つかり、水中からは見つからなかった。殻高は3.5mm~4.0mmの個体が多く、最大で6.0mmの個体も確認された。

なお、本種は福井県産陸水生貝類目録出版後に同日録をまとめた長谷川巖氏によって2002年および2005年に福井県越前市内で、2008年に今立郡池田町で本種が採集されている(長谷川, 未発表)。そのため、正式には福井県初記録ではないが、福井県産陸水生貝類目録およびそれ以降の文献においても本種の記録が見当たらなかったため、目録に追加すべき種として報告した。

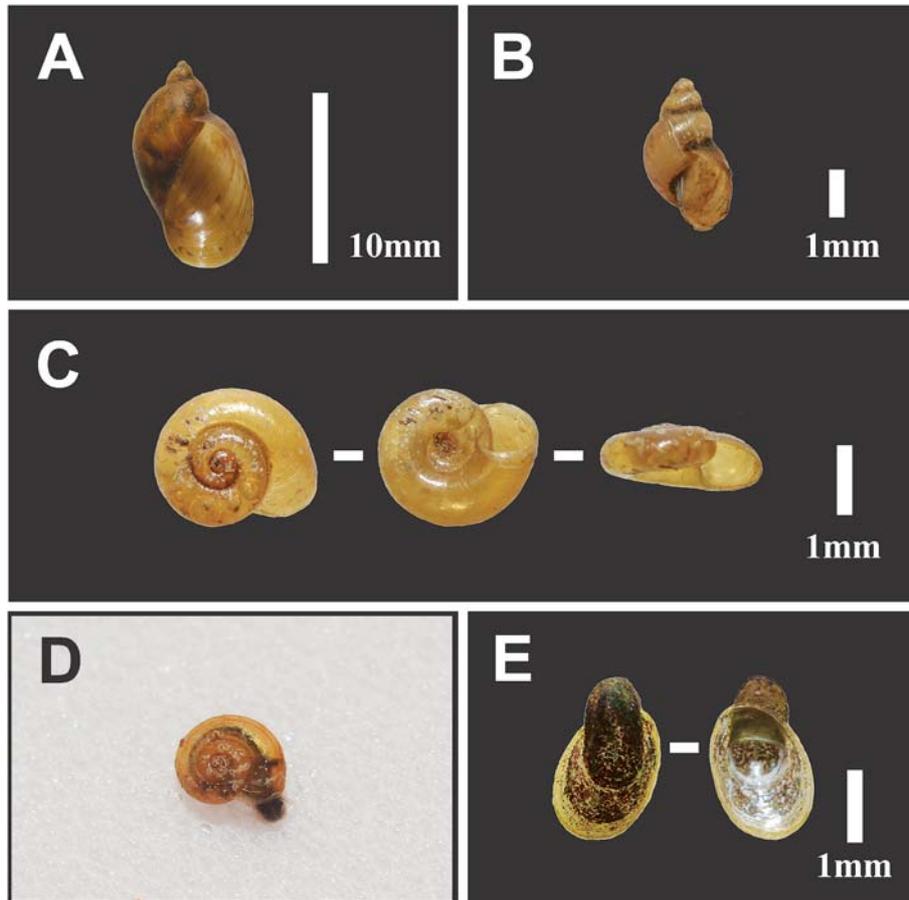


図2：中池見湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類。
A：ハブタエモノアラガイ，B：コシタカヒメモノアラガイ，C：ミズコハクガイ，
D：ミズコハクガイ(生貝)，E：コビトノボウシザラ。

ヒラマキガイ科 Planorbidae

ミズコハクガイ

Gyraulus soritai Habe, 1976 (図2-C,D)

本種は殻表面に成長脈が認められ、鈍い光沢があること、螺管が太く、臍孔が深く窪むことなどから他のヒラマキガイ科の種と区別が可能である (Habe, 1976; 増田・内山, 2004)。また、環境省の第4次レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に位置付けられている (環境省自然保護局野生生物課, 2012)。

本種は2012年3月9日の調査で初めて確認された。本種が採集された環境は主にヨシやガマなど抽水植物が茂る水深5~30cm程度の休耕田であり、その後の調査において個体数は多くないが、中池見湿地全域で広く確認された。調査期間中に確認された個体は殻径2.0mm~3.0mmと本種としてはやや小型の個体が多かった。また、冬期には水際付近の落葉内からも発見され、ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* やナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* と共に見つかることもあった。

同湿地では本種によく似た同じヒラマキガイ科のヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis spirillus* も確認されたが、それらの個体数は少なく、ミズコハクガイの方が多く採集された。

カワコザラガイ科 Ancyliidae

コビトノボウシザラ

Pettancylus pettardi (Jhonston, 1879) (図2-E)

本種はカワコザラガイ *Laevapex nipponica* と似ているが、成長すると内側に殻口の2割から半分以上を覆う隔壁版を形成することで判別が可能である (増田・内山, 2004)。2012年11月23日の調査において水路の水溜りから5個体が確認された。水溜り内に沈んでいた落ち葉にカワコザラガイと共に付着しており、採集個体の長径は2.4mm~2.5mmであった。中池見湿地内において本種はこの1箇所の水溜りで確認されたのみである。なお、この水溜りは以前に中池見湿地に生息していた植物をいったん県外の別の場所に移植し、その繁殖した株を移植した場所であるため、過去に強い人為的な影響を受けている。本種は園芸植物などに付随して移動してきた外来種であると考えられており (増田・内山, 2004; 岡山県生活環境部自然環境課, 2010)、中池見においてもそのような限られた場所のみ分布していることから、このような植物の移植に伴って非意図的に移入してきた種であると考えられる。

4 淡水貝類の生息地としての中池見湿地

中池見湿地では、現在までに17種の淡水貝類が確認

されており、それらの中には福井県内では三方五湖内でのみ過去の記録があるフネドブガイ *Anemina arcaeiformis* なども含まれている (藤野, 未発表)。多くの淡水貝類が生息している本湿地では、調査が進行するにつれて、さらに新記録種が確認される可能性があると考えられる。今回発見された種のうち、唯一の在来種であるミズコハクガイは全国的には記録の少ない種であるが、中池見湿地内では生息範囲が広く、小型の淡水貝類の中でも確認する機会の多い種である。そのため、中池見湿地における様々な水辺環境とその連続性は本種の生息地として貴重であり、今後も保全すべき環境であると考えられる。また、ミズコハクガイはこれまで福井県内で生息が確認されていなかったため、福井県レッドデータブックには掲載されていないが (福井県福祉環境部自然保護課, 2002)、今後本種に関する調査が進むにつれて何らかのカテゴリーに位置付けられる可能性は高い。

ハブタエモノアラガイ、コシタカヒメモノアラガイ、コビトノボウシザラの3種は外来種、もしくはその可能性が高い種とされている (増田・内山, 2004)。これらの種は、人や植物の移動に伴い中池見湿地に侵入したと考えられるが、現在のところ詳しい移入経路は不明である上、環境省が定める要注意外来生物にもリストアップされておらず、在来種に対してどのような影響を与えるかは不明である。コシタカヒメモノアラガイとコビトノボウシザラの2種は現在、中池見湿地内での分布が極めて限られており、今後は分布拡大について注意する必要があるとも考えられる。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、中池見人と自然のふれあいの里およびNPO法人中池見ねっとの皆様には、中池見湿地内における淡水貝類の調査に関してご理解・ご協力をいただいた。また、環境省希少野生動植物種保存推進員の長谷川徹氏、大阪市立自然史博物館の石田惣氏には、福井県内の淡水貝類に関わる情報をご提供いただくとともに本稿を進めるにあたり、有益なご意見をいただいた。また、福井市自然史博物館の梅村信哉氏には本稿を投稿するにあたり、様々な便宜を図っていただいた。これらの方々に深く感謝申し上げる。

引用文献

- 藤野勇馬・和田茂樹, 2011, 福井県敦賀市中池見湿地におけるキトンボの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (58), 65-66.
 福井県福祉環境部自然保護課, 2002, 福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編). 福井県福祉環境部自然保護課, 243p.
 福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会, 1998, 福井県

の陸水生物。福井県県民生活部自然保護課，203p。
福井市自然史博物館，2006，福井市自然史博物館資料目録
鈴間愛作氏寄贈貝類標本目録。福井市自然史博物館，132p
+2pls.

**Habe, T., 1976, New Land and Freshwater Snails (Mollusca)
from Japan. Bulletin of the National Science Museum,
ser. A (Zool.), 2(4), 225-228.**

環境省自然環境局野生生物課，2012，第4次レッドリストの
公表について。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619> (2012
年11月25日閲覧)

環境省自然環境局生物多様性センター，2002，生物多様性調
査 動物分布調査 (陸産及び淡水貝類) 報告書(上)(下)。

環境省自然保護局生物多様性センター，1342p。

河野昭一，1998，中池見湿地の生物多様性と保全の意義。日
本生態学会誌，48(2)，159-161。

窪田彦左衛門，1962，福井市立郷土博物館所蔵貝類標本目録。
福井市立郷土博物館，V+242p。

増田修・内山りゅう，2004，日本産淡水貝類図鑑②汽水域を
含む全国の淡水貝類。ピーシーズ，240p。

野原精一・河野昭一，2003，福井県敦賀市中池見湿地総合学
術調査報告。国立環境研究所報告，(176)，国立環境研究
所，8pls+ix+387p。

岡山県生活環境部自然環境課，2010，岡山県版レッドデー
タブック2009 絶滅の恐れのある野生生物－動物編－。岡山県
生活環境部自然環境課，417p。